

# 親子散歩 冊子で紹介

## 県立大生作成 松江の園児に配布へ



完成した冊子を広げる学生たち。松江市内、乃木7丁目、島根県立大松江キャンパス

島根県立大短期大学部(松江市浜乃木7丁目) 園、観光地など松江市内のお薦めコースを紹介。保育学科の2年生8人が、卒業研究の一環で、親子で散歩する楽しさをまとめた冊子を作った。市内の幼児に配布してスタンプリイ感覚で散歩にいざなう。(中島諒)

## 面白いコース見つけて

新型コロナウイルス禍で子どもが外で遊ぶ機会が減少する中、散歩で免疫力をつけ親子のコミュニケーションも深めてもらおうと、昨年10月から作成を進めた。0〜5歳の保護者を対象にしたアンケートで週1、2回は親子で散歩する世帯が大半を占めることを確認したため、安全で景色な

り、楽しくながら歩いてもよい散歩コースをたくさん見つけてほしい」と話した。5千部発行し、松江市を通じて市内の幼稚園や認定こども園などの4、5歳児約3千人に配布するほか、県立大松江キャンパスでも無料配布する。配布希望や問い合わせは県立大短期大学部、電話0852(26)5255。

松江市内、乃木7丁目、島根県立大松江キャンパス

5千部発行し、松江市を通じて市内の幼稚園や認定こども園などの4、5歳児約3千人に配布するほか、県立大松江キャンパスでも無料配布する。配布希望や問い合わせは県立大短期大学部、電話0852(26)5255。



# 八雲の業績究明、思想発信

# 小泉凡さんにアカデミア賞

## 「文化資源として一層生かす」

国内外の文化や社会の発展に功績のあった人を顕彰するアカデミア賞（一般社団法人全国日本学士会主催）で、小泉八雲記念館（松江市奥谷町）の小泉凡館長（61）が、根県立大短期大学部名誉教授Ⅱが2022年度の受賞者に選ばれた。曾祖父の松江ゆかりの文豪・小泉八雲（1850～1904年）の民俗学的業績を究明し、多様性を尊重する考えを広め、文化資源として生かす点が評価された。

（片山大輔）



アカデミア賞の授与式で記念撮影する小泉凡さん（右）＝京都市

小泉さんは23歳で研究を始め、2009年からギリシャで生まれた八雲が各国を渡り歩いて異文化を積極的に受け入れた「開かれた精神」を広め、持続可能な共生社会の実現につながるプロジェクトを展開。記念館を拠点に八雲の作品を題材とし、国内外で来場者が楽しめる形でのアート展やシンポジウム、松江市

出身の俳優・佐野史郎さんとギタリスト・山本恭司さんの朗読イベントを続けている。

長年の研究や活動で八雲を日米の民俗学の先駆者として位置付けるとともに、出雲地方の振興や海外との文化交流促進に寄与したことが受賞理由。24年に八雲没後120年を迎え、小泉さんは「多くの方の協力で受賞できて感謝している。八雲を松江の文化資源として一層生かしたい」と話した。

同賞は1949年に創設され、文化、社会、国際交流の3分野で功績のあった有名学者らを毎年度3人を上限に表彰。本年度は文化・社会部門で小泉さんと、ゴリラ研究の第一人者で知られる総合地球環境学研究所長で前京大総長の山極寿一さんが受賞した。